

STK会報

発行所
瀬戸内遊漁船約
り団体協議会
0877-63-3121

NPO 法人

瀬戸内西部遊漁船協議

会と情報交換・協力体制

昨年8月に結成された愛媛県松山市の「瀬戸内西部遊漁船協議会」の井上代表理事と村上副理事の来県訪問を受け対談が行われました。

瀬戸内西部遊漁船協議会の井上氏、村上氏の話によれば香川県と同じく漁獲量の減少が見られ、漁場が荒れている。ある程度のルール化をしなければならない。またルール化してもマナーを守れない者にどうして守ってもらうか・・・との事でした。海の資源枯渇化を食い止めようというルール、マナーを作成してやっていかなければならない。今後は情報交換を行なおうと話合いが行われ、また岡山県水産課並びに香川県水産課との対話の場も持たれ様々な課題を残しながらもお互いに協力する事で意見が一致しました。

(海寶で社長と共に)



H29年7月2日 (日)
瀬戸内西部遊漁船協議会では
第1回タイラバ釣り大会が行
われ参加者を募集中です。



※瀬戸内西部遊漁船協議会代表理事挨拶

NPO 法人瀬戸内遊漁船釣り団体協議会福本会長、青井事務局長と対談する機会を頂き感謝しております。将来の瀬戸内釣り船環境の保全と漁業者とのトラブル防止のルール作り等の活動目的を共に

意思疎通ができ東瀬戸内地域・西瀬戸内地域の両NPO法人協議会が今後も連携し、素晴らしい瀬戸内地域の活性化に努めることができれば幸いです。

愛媛県松山市高浜町一丁目四一六・三八
NPO 法人瀬戸内西部遊漁船協議会

代表理事 井上満

稚魚放流の

成果は？

STKでは2012年より真鯛やアコウ、タケノコメバルの稚魚放流を始めて今年で6年目に成りました。昨年には、ヒラメの稚魚放流も行いました。小豆島、高松、坂出、丸亀、多度津沖から荘内半島と放流を行ってきました。

小豆島周辺海域では瀬戸内遊漁船釣り団体協議会と内海地区漁場利用協定協議会との真鯛の共同放流を実施しています。が年々真鯛が減少しているとの現実が起こっています。瀬戸内界隈では全体にそのような状況であるが逆に多方面は真鯛の漁獲量が増えているとの情報もあります。この現況を見据えての対策の必要性を感じなければならぬと思います。

海水は数十年前と比べると本当に綺麗になりました。田畑やゴルフ場から出たリン等が川の流に流れ込み、川の流は海へと流れ込み、それが海を汚す現因として対処されてきました。家庭排水も雨水も浄化槽に入れ無菌にして排水された結果、海の栄養源となる適度に汚れた水が必要である物に影響を与えているのではないか。淡水に生息する生物、貝類の減少、また海の自然の海藻が減少の一因を辿っていると感じています。川からの栄養不足により海藻が減少しバクテリア、プランクトンが少なくなり稚魚の餌の減少により稚魚が成長しない・・・海に必要な栄養が無くなればこれからの海は死んで行くだろう・・・と、かつて内水面漁場管理委員会の委員だった香川大学名誉教授の植松辰美先生と話し合った事を思い出しています。20年程前、希少生物をまとめたレッドブックが作成された時「家庭の水槽の作られた奇麗すぎる水では絶対に日本タナゴの繁殖に必要なカラス貝、松葉貝は育たない」と植松先生がおっしゃいました。

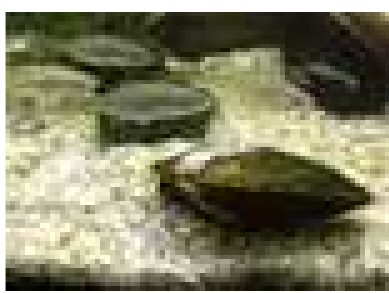
植松先生はその実験を息子に依頼したのでした。息子は先生の意見を聞きながらも自分のやり方でする・・・と言ひ毎日の記録を取りながら実験を続けました。それから植松先生がカラス貝の3mm程度の大きさに育った物を見た時「ここ迄は育つがこれからが育たない」と言い切りました。息子はうなずいていました。月日が過ぎ大変な騒ぎが起き、息子は植松先生にレポートを書くように言われ四苦八苦していました。特許を申請する話にまで成りましたが息子は断り簡単に育つのだと植松先生に説明をしました。植松先生は東京から水産庁の方2人と県関係の方を連れて息子の家に来たのでした。居間に置かれた水槽には1cm5mm程のカラス貝がガラガラしていたのでした。水産庁の方も皆が息子に質問攻めで水槽の水のサンプルや泥を手中に収め、池の有る現場にまで足をはこびました。息子は何食わぬ顔で「親のカラス貝を採取した池の水を毎日欠かさず20リットルのバケツで一杯分の量だけその池の水で水替えをした」との事でした。その池は泥を触るとドブの匂いが放たれ思わず鼻を塞ぎたくなる池でした。

植松先生は「生物が育つには程よく汚れた水が必要だ」と・・・それでも息子は「程よい汚れとはどれ位の事を言うのか?」「デトリタスはどれ位繁殖したらいいのか?」と今は亡き植松先生と論議していたのをよく覚えています。デトリタス、バクテリア、プランクトンが生物の源でありプランクトンなどの死骸が水底にたまったものをほとんどの動物は、水中の動物植物プランクトンやデトリタスを水中から食べるのです。動物プランクトンは生物の死骸が分解す途中にできる死骸からのデトリタスを食べる食物連鎖だと言っていました。大型の動物が、小型の魚類を食べ、小型魚類などは動物植物プランクトンを食べる。雨水さえ濾過槽に入れる今日、いくら稚魚、アサリ等の稚貝の放流をしても餌が無ければ育たないのではないか? 何かの機会に豊かな海の栄養補給を考えたいものです。(AOI)

植松辰美先生 ↑



水槽のカラス貝



タイラバの外道

顔に似合わず旨い魚

皆さんはタイラバをやっているって妙な魚を釣った事は有りませんか？

見るからにグロテスクな顔立ちでオコゼのようで色が違う。そうです『ミシマオコゼ』と言う魚です。

ここ瀬戸内でもちよくちよく顔を見ますが狙って釣れる魚ではありません。

生息域は北海道～九州南岸の太平洋沿岸、青森県～九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、東シナ海の大陸棚域。朝鮮半島南岸、台湾。瀬戸内では水深30m近辺に多いとされています。

名前の由来は兵庫県淡路島沼島でたくさんとれ、オコゼに似ているので「ヌシマオコゼ」が「ムシマオコゼ」になり、やがて「ミシマオコゼ」に変化した。

（日本魚名の研究』洪澤敬三 角川書店）

背中の斑文が陶磁器・三島手の細かく白い文様に似ているため。オコゼはオニオコゼに似ているところから。

三島女郎（静岡県三島市）は醜いことで有名で、「三島女郎のように醜い魚」であってオコゼに似ている。

版)

『新釈魚名考』榮川省造 青銅企画出版

地方名は様々で明石や阿南市椿泊まりではオトコサカンボ、新潟県ではガンコと言ったりベコ。など地方によっている呼ばれています。



WEB図鑑より

形態と

特徴は背

鰭は2基

ある。鰓

蓋後方に

ある擬鎖

骨には大

きな棘が

ある。体

色は茶褐

色で、体

側の上方

前鰓蓋骨

には3本の棘があり、この棘の数などで

キビレミシマや、トウカイミシマなどと

区別するポイントとなる。このほか両眼

間隔にくぼみがあるが、それは眼後縁に

達しないという特徴(キビレミシマでは、

達する)でも区別することができる。体長

30cm近くになる。

食性は肉食性で魚類、エビ類、シヤコ類

を中心にイカ類、カニ類、アミ類を好んで捕食する。特に魚類が多く、アカハゼやテンジクダイなどの底生魚類を主に捕食している。

産卵期の盛期は5月と9月。卵は分離浮性卵で卵膜には亀甲模様を持つ。

漁法は釣りの外道として、あるいは中型・小型底曳網などで漁獲されている。

従来、ミシマオコゼの仲間は産額も低く、練製品の原料くらいの用途しかなかったが、最近は食用魚としても人気があるようで、切り身などにしてスーパーでもニュージールランドなどからの輸入品と並行してみられるようになった。

（出典 ミシマオコゼ WEB魚図鑑）

ところで食べるとなると…。旬は冬で鮮度が良ければ「薄造り」でお刺身に。唐揚げ、鍋にも最高です。また、ムニエルも美味しいです。

身がしっかりしているので、刺身の場合には薄造りをオススメします。フグのような食感を楽しめます。ゼラチン質の皮をおいしく、煮るとアンコウとフグを合わせた感じです。キモはサツパリ、胃袋は菌ごたえ十分でこれも旨い。

さあ、今度タイラバで釣れた時は是非とも食卓に上らせて下さい。

海岸の生物が夢を

かなえてくれる！

海辺で騒ぎ駆け回る子供！時折両手ですくった水を子供にかける親！親子の笑い声が響いている。

アサリがいなくなった砂浜を微かな望みを持つて貝掘りに勤しんでいる合間の出来事。親たちも子供の頃を思い出しているであろう。海水浴シーズンになると「大腸菌が規定値以上なので遊泳禁止だとか控えるように」とのニュースが飛び交っていました。最近では海水浴場の人影がまばらで海水浴に代わってプールが大人気となり人でごった返しています。それはそれでいいし、時代だからと言えば其れまでですが足元で小魚を見つけた事も色々な海藻を見つけた事もありません。海水浴の帰りのお土産は海藻にアサリ、ナイロン袋に大切そうに入れた小魚。帰宅したその日の夕食は酢の物にした海藻、アサリご飯にアサリ汁、卓上の小さな水槽にはハゼ、ギンポの小魚が泳いでいました。楽しかった事を家族で共感していた時代がありました。泳ぐこと以外に沢山の発見もありました。今のお父

さんも子供の頃、海にいそしみ父親やおじいさんに連れられて行き覚えた釣りも現在に繋がっています。様々な生物、海は夢をかなえてくれます。

今日ではゲームで何時でも簡単に釣りたい魚を独りで時間に関係なく釣れます。学校では子供同士での釣行は禁じられ、自転車での校区外へは禁止・・・と自身で新しい物珍しい発見、子供同士の関わり合い、痛み、悲しみ、思いやりを感じてもひと昔前とは違うように思われます。太陽の下で思いきり行動させてあげたいが現在事情に縛られ、そうは出来ないのも事実です。



以前の海水浴場

STK 今年度の計画

◆瀬戸内西部遊漁船協議会と連携して瀬戸内海西部、東部での将来計画に従い協力し合って活動する。

◆STKの会を盛り立て今後の活動等スムーズに運営するためには会員の増員が必要であり各会員が協力して新規会員を増やすことに留意する。

◆内海地区漁場利用協定協議会においてUFC森会長（内海漁協組合長）と共同で実行している放流活動を継続し小豆島周辺の魚植物を守り将来に豊かな資源を残す。また、今年度はキジハタの放流を西讃地区においても粟島漁協浅野組合長と連携して放流をする。

※ 釣果情報

昨年から今年度にかけてのタイサビキは非常に釣果が無く小豆島では毎年釣果が悪くなる一方で不安の一途を辿っている。今まで皆で力を合わせ行ってきた放流行事も今だからこそ続けなければならぬ。幸いにもやっとタイラバでの釣果が見えてきた。キジハタも順調に成長しており漁獲、釣果も見えている。西讃地区海域でも良好な様子が伺えている。